

自閉症啓発デーパレード



商店街パレード



県庁出発

毎年4月2日は、国連の定めた「世界自閉症啓発デー」です。この日が2007年に制定されて以降、自閉症やその他の発達障害に対する理解を進めるための啓発活動が世界的な規模で展開されています。毎年この日は高松市内でパレードを行っていましたが、コロナ禍の為に自粛していましたが、今年は5年ぶりに自閉症啓発パレードを行いました。

詳細は1Pへ

ポム・ド・パンの理念

- ・障害があっても、誰からも愛される人に成長できるように、丁寧に寄り添って関わります。
- ・障害があっても、正しいことを根気よく伝えることにより、何歳になっても成長することを信じます。
- ・障害があっても、できることが増えるように、様々なことを獲得できるように、一貫性をもって、継続して支援します。
- ・障害があっても、その方の得意なことを、大好きなことを見つけ、これを通して、生活基盤を作ります。

「世界自閉症啓発デー2024イベント 報告」

例年、「4月2日は世界自閉症啓発デー」に合わせて、自閉症をはじめとした発達障害について多くの方々に関心を深めて頂くためのイベントを行っております。

2007年、国連総会において「毎年4月2日を世界自閉症啓発デーとする」ことが決議されました。日本においても毎年4月2日～4月8日を発達障害啓発週間とし、都道府県や市町村によって広く啓発活動を実施しています。そして2024年香川県でも啓発パレード/県庁ギャラリーでの啓発資料や作品等の展示/ブルーライトアップ等のイベントを多くの方のご協力によって支えられ継続されています。

香川での啓発パレードは、2011年からはじまり、14年目を迎えています。コロナ禍で中断されていましたが、今年度、野球のオリーブガイナースの選手らも協力、パレードに参加して頂き、5年ぶりに行われました。夕方には、琴電瓦町駅にて、啓発グッズ配布をカマタマーレ讃岐の選手とマスコットキャラクター「さぬびー」が参加して下さり行いました。ブルーのライトアップについては、県内各地の名所などを自閉症のシンボルカラーで彩りました。

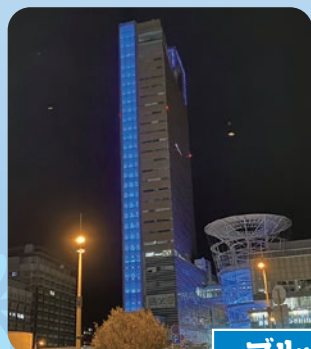
管理者 松原 正子



琴電瓦町駅



丸亀町グリーン



ブルーライトアップ



高松市役所



県庁ギャラリー啓発展示



利用者様 新しいイベント

コロナ禍以降、みんなが集まって楽しい行事を行うことが難しくなってきた中で、何か利用者様が笑顔になるような事はできないかと考えたのが4月から始めました「お弁当の日」と「スイーツの日」です。



外食体験(お弁当の日)

4月より災害時等ユニット内で昼食が摂れない事態を想定して、外食体験の日を設けました。毎月第二木曜日の昼食をお弁当にして交流棟で利用者様みんなで頂きます。

普段の昼食とも違い、また食べる場所も違うので気分はピクニック気分です。4月、5月、6月と天候の関係で屋内での飲食になりましたが、今後は施設内屋外等で外の風を感じながらお弁当を食べるのも気持ちいいと思いますので、色々と計画中です。環境が変わると、食事が出来難い障害特性の方もいらっしゃるの、体験を通して、経験を重ねて成果を期待して災害時に備えます。



スイーツの日

毎月第四木曜日の午後から交流棟に利用者様全員で美味しいスイーツを食べましょうという日です。お楽しみ交流棟カフェです。

当法人の理事であられる野崎幸三氏が代表取締役社長を務められる「菓子工房ルーヴ」様にスイーツの日の目的をお話をさせていただいた所、ご賛同いただき、市販のケーキではなく、ウインドヒルオリジナルケーキを考えて頂き、当日施設まで持ってきて頂いております。

届いた箱の中を見て、思わず職員も生唾を飲み込むような美味しいようなケーキです。利用者様は自分の前にケーキが来るまで、手遊び等のレクリエーションをし、ケーキが来た途端、目の色が変わったように待ちきれない様子でした。みんなで「いただきます。」をした後は、黙々と嬉しそうにケーキを頬張る利用者様を見ると、こちらまで嬉しくなってきます。

この笑顔を見るためにこの企画をやって良かったと思うし、これからも我々職員に見せてくれる利用者様の笑顔をもっと増やしていきたいと思ひます。



水仙ロード 3月27日

3月27日、天気も良く、清々しい日とにフレッシュクラブ小野川先生とリフレッシュクラブメンバーの方々と一緒に水仙ロードへ行きました。水仙、しだれ桜も満開の中を散策しました。帰りの道中ではつくしを見つけては「つくしがあったよ」「ここにもあったよ」と皆様の声が飛び交い、つくしを摘んだりすることも一つの楽しみになりました。コロナ時は中止になりましたが、四年目になります。最後には一緒に歌や踊りの楽しい時間を過ごすことができました。常日頃、利用者様の生活を応援してくださっている多くの方々から感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

主任生活支援員 松田 仁美



小野川先生と一緒に!!



三谷地区リフレッシュクラブメンバーの方々



新緑ハイキング

5月16日

公洲公園

門入ダム



公洲公園の新緑ハイキングにB1ユニットの利用者様達と一緒にきました。公洲池の周りの山道を元一杯に歩く利用者様達の姿を見ると日々のファームでのウォーキングやサーキットでの活動が上手く活きているのだと思いました。また、ファームでも取り組んでいる2人組になってウォーキングをするという活動が山道を2人1組になり2列で歩くということにつながってきていると気が付き、少し胸が熱くなりました。公共のトイレも上手に使用することができて、利用者様達の社会性を初めて知ることができる体験でした。

生活支援員 太田 達也

利用者様 19名 職員 5名で門入ダム散歩

少し門入ダムから離れた駐車場からバスを降り、2列に並び自然を楽しみながら歩きました。ダムの近くまでくると利用者様少し怖いのか止まって動かなくなる様子もありましたが、無事ダムの真ん中で楽しく写真を撮り、その後お茶休憩しました。少し風が強かったですが、いつもと違う場所でのウォーキングでしたので、利用者様の色々な表情も見れ職員も一緒に楽しめました。

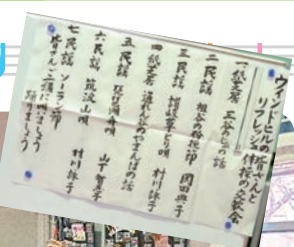
生活支援員 谷 真知子



読み聞かせ・民謡 4月3日



讃岐民謡保存会の皆様、ご訪問ありがとうございました。



4月3日、地域交流棟にて三谷コミュニティの方々が民謡と読み聞かせを利用者様と職員に披露してくださいました。笛と太鼓の生演奏を聴き笛の拭き方、太鼓のたたき方によって音の高さや強さの変化を目の前で体験できたこと、とても嬉しかったです。

読み聞かせでは、聞いている利用者様が引き寄せられるような声のトーン表現力を自分も利用者様に披露し楽しい読み聞かせをしていきたいです。楽しい時間をありがとうございました。

主任生活支援員 松田 仁美

日々、平穏で幸な生活を送っている利用者様は聞いている人、そうでない人もいた様ですが利用者様にとっての非日常の行事は楽しいことだったと思います。全員でなくても薫風の中少しでも琴線に触れる利用者様がいたならそれは嬉しい限りです。

生活支援員 山口 満隆





6月5日
**ナイスハート
 ふれあいのスポーツ大会**
 in 善通寺



コロナも5類となり久しぶりに大人数でのナイスハートふれあいのスポーツ広場に参加しました。外出前から楽しみにしている利用者様も多く、ナイスハートの話をすると笑顔が見られました。バスの中でも職員の話をよく聞いて上半身を使った運動でウォーミングアップはバッチリです。大きな善通寺の体育館に入ると、たくさんの方がいて、にぎやかで目をキラキラさせていました。ストレッチやひも送り競争、風船バレー等次々に楽しいゲームがあり利用者様も職員も一緒になって楽しむことができました。体を動かした後、皆で円になって食べたお弁当も格別でした。あっという間でしたが、施設に帰ってからも「ナイス・ハート」「お弁当」などの声を聞くと、みんないっしょに参加できて本当に良かったと思っています。

主任生活支援員 加藤 理江

私がウインドヒルに来てからはじめての外部行事となるふれあいのスポーツではたくさんの気付きがありました。まずは、利用者様達の普段の生活の中ではあまり見ることのできない笑顔やスポーツを楽しんでいる姿を見ることができました。また、参加されている他の施設の利用者様達と協力して競技をする姿を見て、他の人に合わせる力を持ってもらえる利用者さんのすごさを改めて感じました。その他にも先輩職員の動きや支援を見ることができて、ケースバイケースでどう動けば良いのか身を持って経験することができてよかったです。

生活支援員 太田 達也

6月5日、善通寺市民体育館にてナイスハートふれあいのスポーツ広場・善通寺大会が開催されました。スポーツを通じて他の施設の障害のある人たちと関わりウインドヒルも参加しました。自動車総連主催の自動車産業に関わる組合員さんが当日の運営にはボランティアとして参加をしてくださり、大会を支えてくれました。障害の種別や程度が異なっても誰もが楽しめるプログラムを考えてくださり、「ロープ送り、ホールインワン、風船バレー」はとても楽しんだ様子で笑顔が印象的でした。プログラムを終えた後に美味しいお弁当を食べ、休憩時間には余興を見て一緒に参加して楽しみました。利用者様と共に充実した楽しい一日を過ごしました。

主任生活支援員 松田 仁美

日常生活の中とは違った環境の中、職員の説明の指示をよく聞き、理解のある行動が出来スムーズに競技に参加・移動が出来ていたことは、日頃の成果を感じました。

アトラクション（歌・落語）が終了するまで座って聞くことも出来、中には歌ではリズムをとったり、手拍子をしていた利用者様が微笑ましかったです。

ユニバーサルスポーツ体操では利用者様・現地スタッフ・職員とペアを組みリズム感のある体操をしました。リズムが段々早くなり、それに合わせて踊ることが出来、達成感を感じて職員とハイタッチをして喜びを表現していた利用者様もいました。帰りのバスの中では疲れを見せずに車窓から目を輝かせ景色を見ていたのが印象的でした。今日はぐっすり眠ること間違いないでしょう。

生活支援員 尾崎 由美子

香川県知的障害者福祉協会主催

フライングディスク大会 6月7日



フライングディスク大会にウインドヒルの利用者様とはじめて参加させて頂きました。以前、務めていた施設では、この大会に参加したことがありました。しかし、今回、改めて利用者様の素晴らしさに気づくことができました。この大会は様々な場面で待つということが多かったです。そのどの場面でも利用者様1人ひとりが日々の日課や生活を通して身につけてこられた待つということをしかりと実行することができていました。また、練習してきた成果も十分に発揮することができていました。男子アキュラシー3mでは、1位白川氏 2位森坂氏というすごく良い成績を残すことができました。

生活支援員 太田 達也

ウインドヒル 夏祭り

6月19日



今年 20 年を迎える施設において夏祭りイベントを行いました。初夏と言っても過言ではない蒸し暑い梅雨のこの時期に、利用者様の皆さんに少しでも涼をとってもらおうと計画・実行致しました。

何をしたら暑さを忘れる事が出来るか考え、かき氷を食べてもらおうということに決定しました。三谷コミュニティセンター様にかき氷機をお借りし、利用者様全員が集まり、事前に決めていた席に座ってもらい、祭りが始まるまでワクワクしながら待ってもらいました。自動と手動の 2 台のかき氷機で器に削った氷を盛り、利用者様はその盛った器を持ち、シロップをかける机に並び、好きな色・味のシロップをかけてもらい、自席に座り美味しく食べる方もいれば、冷たすぎるのが頭を抱えたり、眉間にしわを寄せながら食べている利用者様もいました。一通り配り終わり、職員も頂いた後に「おかわり欲しい人？」の声掛けで、殆どの利用者様が我先にとかき氷機の傍に来て、自然と一列に並び（順番を待つという社会性の行動に感激）2 杯目を受け取り嬉しそうに自席に戻り、口いっぱい氷を頬張っていました。1 杯目と同じシロップにしたのが、違う味にしたのが気になりますが、とてもニコニコした顔だったのが印象的でした。中には 3 杯目食べた利用者様もいたようです。最後の方は氷が小さくなり、思ったほどおかわりが食べられなかった利用者様もいましたが、「あれっ？」と言うこともなくシロップの列に並んでくれました。

かき氷が終わった次のお楽しみはシャボン玉をして皆で遊びました。たらいに台所洗剤と洗濯糊を混ぜて作り、そこに色々な形をした輪っかを入れ思い思いに手を振り回し、大きい丸、小さい丸をいっぱい飛ばしていました。扇風機の風を利用してシャボン玉を作ったりしている利用者様もいました。普段の活動ではなかなか見れない利用者様の笑顔がたくさん見れた夏祭りでした。特にかき氷は「やって良かったね」と職員同士でも話題になりました。

今後は日課のレクリエーションにシャボン玉を取り入れる予定です。シャボン玉とは言え結構難しいものです。シャボン玉の液の濃さも大切、手を回すタイミング、振るタイミングも技が必要とされますね。

少し蒸し暑いお天気でしたが、今後も利用者様が喜ぶイベントは継続して開催していきたいと思う一日になりました。

高松南高等学校実習生を受け入れて

5月20日から5月23日までの4日間、香川県立高松南高等学校の生徒2名の方が実習に来られました。実習では、利用者様一人ひとりに対し、介護ではなくコミュニケーション、人と人の関わり方、利用者様一人ひとりに応じた支援の仕方を伝えて利用者様と直接関わりをもってもらいました。実際、実習において、日課活動、食事支援、排泄支援、レクリエーション、行事を経験してもらいました。職員として実習生が利用者様とコミュニケーションが取れ、直接関われるよう実習しやすい雰囲気、環境づくりに努めました。

今後、実習生の方が福祉、介護に携わっていく中でウインドヒルで実習を通し得た事がお役に立てればと思います。実習を終えても、又、是非ウインドヒルに来て頂ければ幸いです。

主任生活支援員 松田 仁美

5月20日～23日



拝啓

向夏の候、施設の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

先日の介護実習におきましては私たち実習生のために貴重な時間を割いてご指導いただき深く感謝申し上げます。

私は今回の実習で利用者様を観察することの大切さを学びました。観察することで怪我や事故を防ぐことができたり、利用者様の変化に気づくことができたりすると分かりました。今後は利用者様を守っていくために必要である介護技術、利用者様への洞察力を身に付け、強めていきます。

このような貴重な経験をもとに、介護福祉士を目指して今後の学習に取り組んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

敬具

香川県立高松南高等学校 福祉科 太田 羽美

拝啓

向夏の候、施設の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

先日の介護実習におきましては、私たち実習生のために貴重な時間を割いてご指導いただき深く感謝申し上げます。

実習中、職員が利用者様に作業時間の時に困っている方がいてその方に優しくこうするんだよと教えており教え方を変えることで利用者様の反応も違おうと学びました。このことから沢山の利用者様と関わり、1人1人の利用者様に合った介助をしていこうと考えました。ここでのたくさんの学びを生かして今後の実習や勉強を頑張っていこうと思いました。

このような貴重な経験をもとに、介護福祉士を目指して今後の学習に取り組んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

敬具

香川県立高松南高等学校 福祉科 原 寧々香

職員研修

4月8日

「原点に戻り支援方法を再検討」をテーマに、管理者より講義を受けました。「トモニ療育センター 河嶋淳子先生の資料」を引用し、ウインドヒルの理念を基本に正しく利用者様に関わる事、また「待つこと」「座ること」「聞くこと」を根気よく伝えていき、利用者様の出来る事を増やしていくことの大切さを改めて学びました。

5月13日

理事 野崎幸三氏（菓子工房ルーヴ 代表取締役社長）
理事 野崎幸三氏をお迎えし、「組織で働くこととは？、人財とは？」をテーマに講演をしていただきました。

《菓子工房ルーヴの代表取締役社長》を務められています。長年組織のトップを務められており、社員に対し望まれている人財像をご自身の経験を基にお話してくださいました。

その中の言葉で「当たり前を当たり前以上に徹底する」は人としての原点に立ち返って考えさせる言葉だと思いました。また一番印象に残ったのは「置かれた場所で咲きなさい」という言葉です。この言葉は「渡辺和子氏」の著書の題名で、この言葉の意味は「置かれた場所で、諦めず最善を尽すことで、幸せになりなさい。それがきっと周りの人も幸せにするから」という意味の様です。人へも思いやり、人としてあるべき姿を大切にこれからも仕事をしていきたいと思えます。

PS. 職員の皆さんにと日頃の労をねぎらっていただき、一人一人に差し入れを頂きました。ありがとうございました。研修の御礼として「ヘデラ」をハート形にアレンジした品を送りました。

6月10日 個別支援会議

支援力の向上～利用者様のより豊かな生活の為に～をテーマに、サービス管理責任者、主任が中心となり個別支援計画に基づき、利用者様の特性、拘りを職員で共有し、施設での利用者様の生活がより良いものにするための研修を行いました。

また現在、支援で困っていることを話し合い、どのようにしたら利用者様も職員も共に成長できるかを話し合いました。



野菜苗植付け

利用者様に、野菜の苗を植えてもらい水やり、草抜き、収穫をするという作業をお願いするために大きめのプランターと野菜用の土、支柱、ネットを購入しました。まずはプランターに入れる土を作るために何種類かの野菜用の土を混ぜ、それを6個のプランターに入れる作業をしてもらいました。土をプランターに入れる時も、スコップを器用に使い全てに均等になるように入れてくれました。植える時も苗が傷まないように丁寧に植える場所に穴を掘り、優しく植えてくれました。定期的な水やりを欠かさなかったおかげで、植える時には手に乗るサイズだったのが、今は日の光を求めてグングン弦を伸ばして大きくなっています。

上に伸びていくように支柱を立て、ネットを張っています。今植えているのは、「きゅうり・ゴーヤ・へちま」です。このまま枯らさずに大きくなっていけば、実が実り収穫するのも夢ではないと思います。利用者様が自分たちで育てた野菜を美味しく食べる日もそう遠くはないと思います。この作業が定着し、野菜を育てる喜びを知ってもらいたいです。



社会福祉法人ポム・ド・パン後援会会員

敬称略・順不同

●令和5年度個人会員 令和6年1月4日～令和6年3月31日

桑田 まり

●令和6年度個人会員 令和6年4月1日～令和6年6月30日

松田 展和	小山 裕介	深井 一恵	藤田 共子	後藤見知子	三好美千代	山本 哲	藤岡 剛
岡 康弘	瀬谷 之人	藤岡 正温	三好 智子	山口 満隆	田岡 晃平	谷川 聡	谷川 博彰
田岡 博雄	加藤 理江	宮武 秀樹	松原 廣	松原 正子	佐竹 勝利	松木知恵子	宮崎 昭子
河北 豊	高橋由佐子	三木 武敏	山本 勝博	宮崎 歩	眞鍋 幸恵	森永 政子	村山 昌
松原 馨	筒井 政志	宮崎 成	和田 龍兵	愛川 幸子	千代美知子	佐藤 明美	大矢三千代
北條美代子	三好 悦子	遠藤 能成	松田 仁美	藤田美佐緒	大藤 久志	大藤 忍	高山 照子
新名 義隆	新名 義弘	洲崎 輝一	廣野 眞理	石丸 和孝	池下 律子	計野浩一郎	藤田 和代
株式会社共同ガス	岡田美智代	多田美恵子	岩田 武	山本 和市	眞嶋 方文	眞嶋 邦子	高木 俊幸
大西 敏夫	塩本 洋子	増田 泰子	富田 ト工	伊賀 宏文	前田 浩子	佐々木久一	沖野 貴子
沖野 知晴	沖野 昌志	小野 晴世	小松千賀子	上田 絹代	上田 祐市		

●令和6年度団体会員 令和6年4月1日～令和6年6月30日

株式会社トミタ	砂入池水利組合	有限会社晴天	大成段ボール株式会社	有限会社高松機械
株式会社一陽パック	株式会社合田工務店	有限会社香南鉄筋	しろくま薬局	百十四銀行 空港口支店
有限会社高島産業	株式会社カナック	株式会社ムーミー	JF卓球クラブ	

令和6年4月1日～令和6年6月30日現在、以上の方々に継続及び新規にご入会して頂きました。

令和6年6月30日以降にご入会の方々は、次回の会報にお名前を掲載させていただきます。本当にありがとうございます。

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会のご案内

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会は、当法人が運営する障害者支援施設「ウインドヒル」をサポートしています。今後長期にわたり、利用者一人ひとりを大切にしたい理想的な療育を行い、施設の整備を継続的に発展させてゆくには、より多くの方々のご支援を必要としております。

何卒、私達の趣旨をご理解いただき「社会福祉法人ポム・ド・パン後援会」にご入会下さいますようお願い申し上げます。

なお、すでに会員の方には毎年年初め4月1日付で継続お願いのご案内と振込用紙を送付しております。よろしくお願いたします。

[年会費] 個人会員 一口3,000円 団体会員 一口10,000円

[ご入金方法] 郵便振替 口座番号 01690-3-74305 口座名称 社会福祉法人ポム・ド・パン後援会

あたたかいご支援、本当にありがとうございました

編集後記

東京五輪が開催されてから早3年が経ち、今年はパリ五輪が開催されます。現在様々な競技で出場権獲得とニュースが流れています。特に今回はバスケットボール、バレーボールが男女共出場が決まっているので注目したいですね。かく言う私も学生時代はバスケットに打ち込んだ一人です。今は全く身体がついていきませんが、テレビ中継を見ると、気持ちだけはあの頃にタイムスリップし、ワクワクしますね。



松ほっくりのポムです。



松ほっくりのパンです。